

指針の主な取組状況（実績）

指針の内容（(3) 主な取組 指針p18)	対応及び実績
<p>ア 里の力 ～地域の人々に守られている里地里山～ 「里」に住み、農林業を営み、その地域の特性などを良く理解した、地域に愛着を持つ人々を主体とした保全等の継続的な活動が推進されるよう、次の施策を講じます。 また、地域選定及び協定締結の数を増やし、活動を広げていきます。</p> <p>(ア) 里地里山保全等地域の選定及び里地里山活動協定の締結の促進</p> <p>a 保全等の機運醸成の取組への支援 里地里山の保全等の活動のきっかけづくりや機運の醸成を図るため、情報収集や市町村への働きかけを行うなど、市町村が実施する取組に対して助言や協力を行います。</p> <p>b 地域の合意形成や保全等の方針づくりへの支援 土地所有者等や地域住民が主体となった保全等の活動に向けた地域の合意形成を図るため、市町村が実施する地域資源の現状や保全等に向けた課題等の調査、ワークショップ等の開催、保全等の方針の策定などの取組に対して助言や協力を行います。</p> <p>c 里地里山活動協定の締結の促進への支援 里地里山活動協定の締結の促進を図るため、市町村が実施する活動団体づくり、活動計画の策定に必要な調査、地元調整などの取組を支援するとともに、円滑な協定の締結に向けた助言や協力を行います。</p>	<p>表1、表2参照</p> <p>[市町村担当者会議の開催] [事業説明] ・R2.6.18 松田町と新規地域調整 ・R2.6.19 山北町任意団体に説明 ・R4.6.22 茅ヶ崎市に説明 ・R4.9.15 横浜市に説明</p>
<p>(イ) 里地里山活動協定に基づく活動の支援</p> <p>a 里地里山保全等の活動への支援 認定里地里山活動協定に基づいて行われる保全等の活動を促進するため、活動団体が行う農林地の保全等の活動や、継続的な活動を促進するため、観光を取り入れた地域資源の活用を図るなどの経済的な取組を多面的に支援します。</p> <p>b 人材育成の取組への支援 活動団体の活動を支える中心的人材の確保や担い手の育成を通じて活動を継続的なものとするため、活動団体が行う活動のリーダーの育成、初心者講習会、技術研修会など多様な人材育成の取組を支援します。</p>	<p>表1、表2、表3参照</p> <p>県単独の補助事業；里地里山保全等促進事業補助金交付要綱（以下「要綱」という。）要綱第2条 [認定協定活動団体支援事業]</p>

<p>イ まちの力 ～みんなに大切にされている里地里山～ 「まち」の人々の里地里山の多面的機能の重要性に対するより一層の理解と里地里山の保全等の活動への参加を促進し、「まち」と「里」の人々たちが相互に連携・協働した保全等の取組が推進されるよう、次の施策を講じます。</p> <p>(ア) 里地里山保全等に対する県民の理解の促進</p> <p>a 里地里山に対する理解促進 里地里山シンポジウムの開催、教育機関や市町村との連携強化などにより積極的な情報発信を図り、県民に対するかながわの里地里山の理解促進に努めます。</p> <p>b 里地里山へのふれあいの機会の提供 子ども里地里山体験学校等の様々な里地里山体験の取組を進めるとともに、活動団体が行う地域資源を生かした観光などの取組を支援することにより、県民が里地里山にふれあう機会を提供します。</p>	<p>表4-1、4-2 参照</p> <p>表5-1、5-2 5-3、5-4 参照</p>
<p>(イ) 都市住民等の里地里山の保全等への参加の促進</p> <p>a 都市住民等との交流促進への支援 都市住民等と活動団体との相互理解を深めるため、活動団体が実施する消費者団体や都市住民等へのPR活動や交流イベントの開催、情報発信などの取組を支援します。</p> <p>b 人材育成の取組への支援 都市住民等の里地里山の保全等の活動への参画を図るため、ボランティアの募集を進める他、活動団体が実施する初心者講習会や技術研修会などの人材育成の取組を支援します。</p> <p>c 企業や大学をはじめとした教育機関等との連携の促進 企業や大学等の多様な主体の知識やノウハウ等を、里地里山の保全等の活動に生かすため、活動団体と企業・大学をはじめとした教育機関等との連携を促進します。</p>	<p>表1、表2、表3 参照</p> <p>県単独の補助事業；要綱第2条 [認定活動団体支援事業]</p> <p>・県HPによるお手伝い募集ページ</p> <p>[小田急電鉄との連携イベント] ・蓑毛里地里山保全地域を守る会 田植え 秋の収穫 ・金次郎のふる里を守る会 生き物調査 秋の収穫 ・黒川里地里山保全会 里山の観察</p> <p>[東京海上日動との連携イベント] ・小松城北里山をまもる会 ジャガイモ掘りとホタル鑑賞</p> <p>表6-1、6-2参照</p>

ウ 里の世話人 ～里地里山のコーディネート～

「里の力」や「まちの力」を十分に発揮させ、これらを効果的に結びつけるための連携の強化などの取組を促進し、保全等の活動が継続的なものとなるよう、次の施策を講じます。

(ア) 里地里山のコーディネート

a 里地里山のコーディネートの推進

活動を進める上での様々な課題を解決したり、活動団体と都市住民等の連携を促進するために、実践的かつ機動的な助言や調整を行います。

(イ) 活動団体相互の連携の強化

a 活動団体の交流の促進

県内の活動団体が参加する交流会等を開催し、活動団体間の相互理解を深め、共通の課題についての意見交換を行うなど連携の強化を図ります。

b 活動に関する情報・ノウハウの共有

里地里山の保全等の活動の事例やノウハウを収集・蓄積し、活動団体間で共有・活用できる資料として整備します。

(ウ) 大学、研究機関等との連携による調査・研究の推進

a 保全等の効果の検証・評価

里地里山の保全等の継続的な活動を促進するため、活動の効果について、大学・研究機関等と連携し、里地里山の多面的機能の観点から検証・評価し、活動団体にフィードバックします。

また、県民や企業等の里地里山の保全等の活動に対する理解と参加の促進を図るため、活動の効果について、研究成果の発表の場を設けるなど、検証・評価の結果を積極的に情報発信します。

[想定される検証・評価の分野の例]

- 農地や二次林が保全されることの効果
- 良好な景観の保全や伝統的生活文化の知恵や技術の継承
- 生物多様性の確保 等

b 保全等の手法の調査・研究

里地里山の保全等の手法について大学・研究機関等と連携し、調査・研究を行い、より効果的な保全等の推進を図ります。

[コーディネーター派遣]

・H30.12.6

箱根町畑宿地区

(畑宿の今後の活動方針について)

表7参照

表8参照

表1 里地里山保全等地域の選定数及び里地里山活動協定の認定数

全体計画と取組状況 上段：計画、下段：実績累計

	H21 (2009)	H22 (2010)	H23 (2011)	H24 (2012)	H25 (2013)	H26 (2014) ※1	H27 (2015) ※2	H28 (2016)	H29 (2017)
里地里山保全等地域の選定の促進 [選定地域数]	5 地域 H20 5 H21 9	8 地域 10 地域	11 地域 13 地域	14 地域 14 地域	16 地域 17 地域	- 18 地域	- 19 地域	- 20 地域	- 20 地域
里地里山活動協定の認定の促進と活動の支援 [認定団体数]	6 団体 8 団体	10 団体 9 団体	14 団体 11 団体	18 団体 14 団体	20 団体 16 団体	22 団体 19 団体	2014年度より増加 20 団体	- 22 団体	- 23 団体

	H30 (2018)	H31 (2019) ※1	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)			
里地里山保全等地域の選定の促進 [選定地域数]	- 21 地域	22 地域 21 地域	23 地域 22 地域	24 地域 22 地域	25 地域 22 地域	26 地域 22 地域			
里地里山活動協定の認定の促進と活動の支援 [認定団体数]	- 24 団体	- 26 団体	- 28 団体	- 26 団体	- 26 団体	- 26 団体			

※1 H26 目標及び H31 以降の目標は「かながわグランドデザイン(PJ21)」 ※2 H27 は県環境基本計画(PJ4)

表2 里地里山保全等促進のためのしくみ

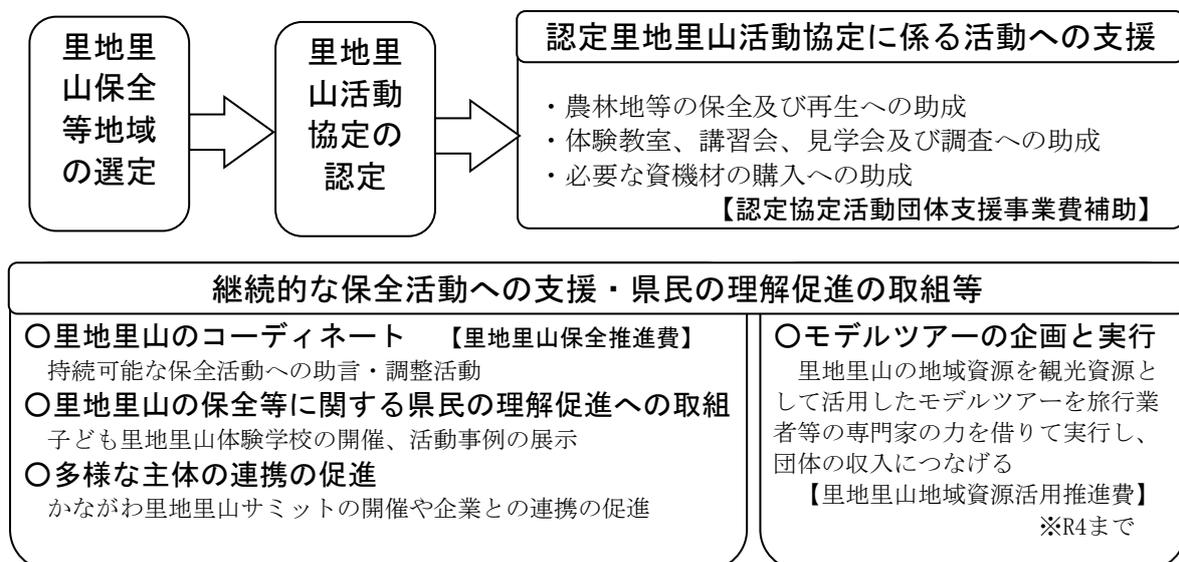


表3 認定協定活動団体支援事業補助実施地区一覧

市町村	保全等 地域名	事業主体	決算額(千円)								
			H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
川崎市	黒川	黒川里地里山保 全会						834	767	767	767
相模原市	小松・城北	「小松・城北」里山 をまもる会	552	612	612	612	612	499	543	522	522
厚木市	七沢	七沢里山づくり の会				217	475	475	443	443	353
		NPO里山ネッ ト・あつぎ								392	312
	荻野三ツ沢	荻野三ツ沢の 里山を守る会 ゆめのシステム プロジェクト							324	211	211
平塚市	土沢	里山をよみがえら せる会	614	380	383	383	282	233	233	233	233
		土屋里地里山再 生グループ	300	472	377	709	413	206	206	206	206
藤沢市	石川丸山 谷戸	石川丸山ホテル 保存会	183	189	178	161	275	135	121	121	230
秦野市	名古屋	名古屋里山を守 る会	339	371	327	522	525	460	410	408	439
	菩提	表丹沢菩提里山 づくりの会	310	612	545	413	464	342	342	93	99
	堀西	波多川四十八瀬 を愛する会			139	323	328	328	328	262	274
		堀西里地里山保 全地域を守る会				267	177	190	190	190	158
	蓑毛	蓑毛里地里山保 全地域を守る会				178	107	126	126	126	256
	寺山	中丸の里山を守 る会					206	221	221	221	221
小田原市	久野	美しい久野里地 里山協議会	183	250	147	147	147	127	127	127	127
	東栢山	金次郎のふる里 を守る会			539	459	459	459	459	362	362
	上曾我	曾我山応援隊					253	168	356	356	578
南足柄市	大雄町五 本松・原	五本松・原花咲く 里山協議会		1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	800	800	800
	矢倉沢	矢倉沢里地里山 会			1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	800	800
	内山	内山里地里山の 会							332	130	134
箱根町	畑宿	箱根旧街道畑宿 里山と清流を守る 会						338	123	123	197
松田町	寄	ロウバイを守る会									528
計			2,481	3,886	5,247	6,391	6,723	7,141	7,451	6,893	8,088
補助団体数 (補助地区数)			7	8	11	14	16	18	20	21	23

市町村	保全等 地域名	事業主体	決算額(千円)				
			H30	H31	R2	R3	R4
川崎市	黒川	黒川里地里山保 全会	767	671	603	552	603
相模原市	小松・城北	「小松・城北」里山 をまもる会	472	442	442	405	406
	篠原の里	特定非営利活動 法人 篠原の里				482	326
厚木市	七沢	七沢里山づくり の会	60	110	110	101	129
		NPO里山ネッ ト・あつぎ	306	356	356	298	335
	荻野三ツ沢	荻野三ツ沢の 里山を守る会	161	211	268	163	178
		ゆめのシステム プロジェクト	151	201	259	237	277
	小鮎	飯山農楽校			111	175	111
みどりと清流の ふるさと創造委 員会				218	126	138	
平塚市	土沢	里山をよみがえら せる会	183	274	272	279	273
		土屋里地里山再 生グループ	98	35	67	44	0
藤沢市	石川丸山 谷戸	石川丸山ホテル 保存会	197	197	197	180	197
秦野市	名古屋	名古屋里山を守 る会	367	367	0	0	0
	菩提	表丹沢菩提里山 づくりの会	79	129	129	118	55
	堀西	波多川四十八瀬 を愛する会	319	347	306	372	398
		堀西里地里山保 全地域を守る会	119	152	152	139	152
	蓑毛	蓑毛里地里山保 全地域を守る会	136	236	230	213	213
寺山	中丸の里山を守 る会	177	177	139	132	144	
小田原市	久野	美しい久野里地 里山協議会	99	149	149	136	127
	東栢山	金次郎のふる里 を守る会	312	305	255	0	0
	上曾我	曾我山応援隊	442	468	468	387	387
南足柄市	大雄町五 本松・原	五本松・原花咲く 里山協議会	754	800	800	772	716
	矢倉沢	矢倉沢里地里山 会	800	800	750	800	780
	内山	内山里地里山の 会	84	134	121	111	121
箱根町	畑宿	箱根旧街道畑宿 里山と清流を守る 会	141	82	132	0	0
松田町	寄	寄ロウバイの会	448	448	448	563	492
	寄土佐原	土佐原桜の会		755	675	618	675
	寄弥勒寺	弥勒寺郷桜の会			659	376	415
計			6,672	7,846	8,316	7,779	7,648
補助団体数 (補助地区数)			23	24	26	25	24

表 4-1 里地里山シンポジウムの開催状況

開催日	テーマ	プログラム	講師	参加者数
H20.5.10 (雨) 秦野市文化会館	よみがえれ！ 私たちの里	(pm) 条例の説明、基調講演、活動事例発表 (am)他に里地里山ミニ体験を実施(厚木市七沢、秦野市名古木)	東京大学名誉教授 養老孟司 「里地里山、身近な自然の大切さと今を生きる私たちの役割」	総数432名 うち 一般 192名、 関係団体 60名
H23.2.12 (雪) 神奈川県民ホール	未来に引き継ぐ 神奈川の里地里山	条例の説明、基調講演、 大学生の活動研究発表 会、パネル展示会	タレント 大桃美代子 「農業体験で地域を元気に」	総数282名 うち 一般 131名 関係団体(大学・団体) 106名
H25.2.23	未来に引き継ぐ 神奈川の里地里山	条例の説明、基調講演、 企業・大学生・活動団体の 活動事例発表、パネルディスカッション、 パネル展示会	写真家 今森光彦 「実践をとおしてみた里地里山の大切さ」	総数455名 うち 一般287名 関係団体(大学・団体・行政) 168名
H27.1.24	未来に引き継ごう！ 私たちの里地里山	条例の説明、基調講演、 企業・大学生・活動団体の 活動事例発表、パネルディスカッション、 パネル展示会	女優・ライフコーディネーター 浜美枝 「美しい暮らしを通じた里地里山の魅力」	総数500名
H29.2.4	いのちを守る！ かながわの里地里山	条例の説明、基調講演、 企業・大学生・活動団体の 活動事例発表、パネルディスカッション、 パネル展示会	俳優・日本野鳥の会会長 柳生博 「森と暮らす・森に学ぶ」	総数352名

表 4-2 アンケート結果

「里地里山」という言葉の認知度について

年度	知っていた		今回初めて知った	
	人数	割合	人数	割合
H20	167名	74%	57名	26%
H22	119名	80%	20名	14%
H24	229名	91%	21名	8%
H26	195名	80%	48名	19%
H28	230名	94%	13名	17%

(母数等が異なるため単純比較はできない)

表5-1 子ども里地里山体験学校の実施状況

年度	場所	受入れ団体	回数	実施内容	参加者数	申込者数→ 当選者/倍率
H20	相模原市 城山町 小松・城北	「小松・城北」里山をまもる会	全2回	田植え体験		136組384名の親子→22組61名の親子/6.2倍
			①	田植え・里地里山散策	18組51名	
			②	稲刈りと生き物調査	15組44名	
			小計	95名		
H21	秦野市菩提	表丹沢菩提里山を守る会	全4回	蕎麦づくり体験		63組172人→33組98人/1.9倍
			①	蕎麦、コスモスの種蒔き、流しそうめん試食	22組64名	
			②	栽培管理体験(土寄せ、草取り)	24組71人	
			③	蕎麦の刈り取り、脱穀	28組77名	
			④	蕎麦打ち、試食	26組83名	
小計	295名					
H22	小田原市久野	美しい久野里地里山協議会	全3回	田植え体験		38組114名→20組61名/1.9倍
			①	田植え体験と竹馬づくり	19組59名	
			②	田の栽培管理(かかしづくり、生き物調査)	13組38名	
			③	稲刈り、もみすり、精米体験	17組51名の親子	
小計	148名					
H23	平塚市土屋	里山をよみがえらせる会	全3回	蕎麦づくり体験		34組96名→20組59名/1.7倍
			①	蕎麦の種蒔き、生き物調査、竹細工体験	13組40名の親子	
			②	蕎麦の刈り取り体験、弓作り、崖上り	13組38名の親子	
			③	蕎麦打ち、竹馬づくり体験、そり遊び	17組50名の親子	
小計	128名					
H24	藤沢市石川丸山谷戸	石川丸山ホテル保存会	全3回	田植え体験		57組157名→20組53名/2.9倍
			①	田植えと竹馬づくり	18組62名	
			②	栽培管理(草取り、かかしづくり、生き物調査)	18組47名	
			③	稲刈り、掛け干し、サツマイモ、里芋の堀取り体験(※後日精米したお米を希望者に送付)	17組51名	
小計	160名					
H25	南足柄市	五本松・原	全3回	蕎麦づくり体験		25組70名→

	大雄町	花咲く里山協議会	①	蕎麦の種蒔き、竹を使った工作	17組46名	18組50名/1.4倍
			②	蕎麦の収穫、下草刈り	12組32名	
			③	蕎麦打ち、押し花	16組42名	
			小計	120名		
H26	厚木市七沢	七沢里山づくりの会	全3回	田植え体験		29組82名→ 29組82名
			①	田植え(午後降雨にて竹細工体験は中止)	16組42名	
			②	下草刈り、藻取り(午後は降雨にて生き物調査は中止)	14組41名	
			③	稲刈り、しめ縄作り、燻製作	14組39名	
			小計	122名		
H27	秦野市名古木	名古木里山を守る会	全3回	ラッカセイ、サツマイモの栽培体験		17組52名→ 17組52名
			①	ラッカセイの種まき、サツマイモの苗植え、竹細工体験	8組20名	
			②	下草刈り、生き物調査	11組28名	
			③	ラッカセイ、サツマイモの収穫、秋の里山めぐり	7組18名	
			小計	66名		
H29	箱根町畑宿	箱根旧街道畑宿里山と清流を守る会	全2回	自然薯の栽培体験		50組132名→ 11組31名/4.3倍
			①	自然薯畑の草刈り、マス釣り、寄せ木細工作り	10組27名	
			②	自然薯掘り、自然薯の試食、旧東海道の散策	10組28名	
			小計	55名		

述べ 26 回

延べ 1,189名

表5-2 子ども里地里山体験学校 参加者のアンケート結果

	参加者住所地 (組数)	Q1 体験してみて良かったか			
			良かった	良くなかった	どちらとも言えない
H20 田植え体験 (相模原市城山町小松・城北)	川崎市(7)、横浜市(6)、相模原市(3)、横須賀市(2)、厚木市(1)、大和市(1)、二宮町(1)	田植え	26人(96%)	—	—
		収穫	20人(95%)	—	1人(5%)
		[良かった理由] 普段体験できないことが出来た(20)、お米が出来るまでの課程を学べた(7)、また参加したい、この企画を継続してほしい(6)、四季の違い、山の栗拾い、炭焼き、ホテル観察、しろかき等も体験出来た方がよい(5)			
H21 蕎麦づくり体験 (秦野市菩提)	横浜市(14)、川崎市(5)、相模原市(4)、平塚市(2)、大和市(2)、横須賀市(1)、藤沢市(1)、小田原市(1)、海老名市(1)、座間市(1)、綾瀬市(1)	種まき	31人(97%)	—	1人(3%)
		収穫	30人(94%)	—	2人(6%)
		蕎麦打ち	40人(100%)	—	—
		[良かった理由] 普段体験できないことができた(26)、親子で一緒に体験したこと(14)、種蒔きから蕎麦を食べるまでの一連の作業を体験・学べた(10)、1回でなく4回体験できたこと(7)、また参加したい、この企画を継続してほしい(10)			
H22 田植え体験 (小田原市久野)	横浜市(10)、川崎市(3)、横須賀市(1)、平塚市(1)、大和市(1)、秦野市(1)、南足柄市(1)、二宮町(1)、湯河原町(1)	田植え	23人(100%)	—	—
		栽培管理	23人(100%)	—	—
		稲刈り	23人(100%)	—	—
		[良かった理由] 普段体験できないことができた(13)、お米作りの過程、大変さを学べた(5)、竹馬づくりや虫取りができた(4)			
H23 蕎麦づくり体験 (平塚市土屋)	横浜市(7)、川崎市(3)、大和市(2)、相模原市(1)、茅ヶ崎市(1)、厚木市(1)、伊勢原市(1)、座間市(1)、南足柄市(1)、綾瀬市(1)、大磯町(1)	全3回	23人(100%)	—	—
		[良かった理由] 普段体験できない事が出来た(9)、種蒔きから蕎麦打ちまで一連の流れを知ることができた(9)、個人では出来ない体験だった(2)、食料を作るのに手間がかかること、食べるために働くことの大切さを知った(1)、竹細工は自分で作ること、形として残り記念になる(9)、崖登り、弓矢遊びなど街中で体験できない自然の中での遊びや普段なら危ないからやめると言う遊びができた(6)、昔の遊び(ベーゴマ、メンコ、ビー玉など)をやれたら良い(1)			
H24 田植え体験 (藤沢市石川丸山谷戸)	横浜市(9)、藤沢市(2)、鎌倉市(2)、川崎市(1)、横須賀市(1)、小田原市(1)、茅ヶ崎市(1)、三浦市(1)、大和市(1)、海老名市(1)	全3回	21人(100%)	—	—
		[良かった理由] 普段体験できないことが出来た(12)、お米が出来るまでの様子を学べた(3)、自然体験ができた(7)、竹馬を作ったり乗るため練習したりした(3)、お年寄りや地域の方とのふれあい(2)、遊び道具は材料があれば作れることを学べたこと(1)、 [その他] この体験を続けてほしい、また参加したい(3)、冬の里地里山体験もしたい(1)			
		Q1 体験してみて良かったか			

	参加者住所地 (組数)		良かった	良くなかった	どちらとも言えない
H25 蕎麦づくり体験 (南足柄市大雄町)	横浜市(7)、相模原市(2)、茅ヶ崎市(2)、川崎市(2)、厚木市(1)、大和市(1)、海老名市(1)、伊勢原市(1)三浦市(1)	蕎麦の種まき・収穫	10人(100%)	—	—
		蕎麦打ち	20人(95%)	—	1人(5%)
<p>[良かった理由] 普段体験できないことが出来た(5)、子供が充実した時間を過ごせた(1)、お蕎麦が美味しかった(2)、蕎麦の生育が体験できた(3)、里地里山を体験できた(1)、食べ物の大切さを知った(2)、農業の苦労、大変さがわかった(1)、土に触れる機会を得た(1)思っていたより本格的だった(1)</p>					
H26 田植え体験 (厚木市七沢)	横浜市(6)、川崎市(7)、相模原市(4)、厚木市(4)、藤沢市(2)、海老名市(3)、藤沢市(2)、綾瀬市(1)、大和市(1)	稲刈り しめ縄	16人(100%)	—	—
		<p>[良かった理由] 普段体験できないことができた(3)、親子で一緒に体験したこと(1)、しめ縄作りが難しかったが面白かった(3)、目的に合致したイベント、スタッフやボランティアの方が親切(2)、協力してできた(1)、稲刈りの大変さを知ることが出来た(1)、刃物を使う行為の危険さを理解できた(1)</p>			
H27 ラッカセイ、サツマイモの栽培体験 (秦野市名古木)	横浜市(6)、川崎市(2)、小田原市(1)、平塚市(2)、大和市(1)、秦野市(1)、藤沢市(1)伊勢原市(1)、海老名市(1)、大井町(1)	種まき、苗植え	10人(100%)	—	—
		草刈り、生物調査	10人(95%)	—	1人(5%)
		収穫・秋の里山めぐり	9人(100%)	—	—
<p>[良かった理由] 普段体験できないことができた。お米作りの過程、大変さを学べた。竹馬づくりや虫取りができた。ラッカセイが大好きだから。1回で完結するイベントではなく種まきから収穫までの流れを掴むことができた。大人にとってもいい勉強になった。</p>					
H29 自然薯の栽培体験 (箱根町畑宿)	横浜市(6)、小田原市(1)、藤沢市(1)、海老名市(1)、秦野市(1)、相模原市(1)	草刈り、マス釣り、寄せ木細工	27人(100%)	—	—
		自然薯掘り、試食、旧東海道散策	28人(100%)	—	—
<p>[良かった理由] 普段体験できないことができた。自然薯を掘るだけでなく草刈りから収穫まで体験できた。原木になっているしいたけを取り、とても美味しかった。マス釣りは生きているものを取り、その場で食べるという経験ができ良かった。寄せ細工は会長さんの実演が見れて良かった。旧等海道の石畳の歴史がわかった。自然薯がとにかく美味しかった。</p>					

	Q2 里地里山を次世代に継承するために県(行政)がすべきことはあるか
H21田植え体験 (相模原市城山町小松・城北)	里地里山を理解してもらうためのこのような企画の実施(2)、学校教育プログラムへの取り入れ(4)、周知(5)、条例や制限を作る(2)、金銭による支援(2)、就農しやすい仕組みづくり(3)、体験の場(1) 等
H21蕎麦づくり体験 (秦野市菩提)	里地里山を理解してもらうためのこのような企画の実施(6)、広報活動(4)、農地の取得・貸し出しを容易に(4)、農地荒廃化対策及び農業・地域の活性化(5)、自然を壊さず残すため、里山エリアを買い上げる等(5)、イベント終了後も継続して参加できることを企画する(1) 等
H22田植え体験 (小田原市久野)	里地里山を理解してもらうためのこのような企画の実施(5)、ボランティアの募集(1)、学校教育プログラムへの取り入れ(1)、就農支援(1)、過疎化対策としての農業学校開設(1)、情報提供、周知(3)、若い家族の移住支援(1)、拠点(アート、道の駅等)施設の整備(3) 等
H23蕎麦づくり体験 (平塚市土屋)	里地里山を理解してもらうためのこのような企画の実施(6)、ボランティアの募集(4)、就農支援、助成、里地里山への移住者募集(2)、若者の職業の一つとして支援(1)、学校教育プログラムへの取り入れ(2)、より一層広報活動を実施(6)、公園としての運用(2)、里地里山の保全に税金を使う(1) 等
H24田植え体験 (藤沢市石川丸山谷戸)	里地里山を理解してもらうためのこのような企画の実施(5)、小学校等の学習の場など、教育に活かして残す(2)、安易に開発許可を出さない、県有地として保全してほしい(2)、里地里山保全に税金を使ってほしい(3)、県民のふる里として遊べる場所にしてほしい(1)、農業に興味ある人に、休耕地などを貸し付けて農業を行う機会を設ける(1)、周知活動(3) 等
H25蕎麦づくり体験 (南足柄市大雄町)	里地里山を理解してもらうためのこのような企画の実施(3)、ふるさと納税などを活用(1)、ボランティア活動(1)、里地里山で宿泊体験施設を作る(1)、学校教育プログラムへの取り入れ(2)、資金や人材の確保(1) 等
H26田植え体験 (厚木市七沢)	里地里山を理解してもらうためのこのような企画の実施、広報誌の活用、助成金や学生ボランティア、校教育プログラムへの取り入れ、等
H27ラッカセイ、サツマイモの栽培体験 (秦野市名古木)	里地里山を理解してもらうためのこのような企画の実施、山を行政が買い取る、可能な限り予算面での補助、ボランティアの募集、学校教育プログラムへの取り入れ、等
H29自然薯の栽培体験 (箱根町畑宿)	里地里山を理解してもらうためのこのような企画の実施、小学校等の学習の場など、教育に活かす、ボランティアの募集、SNSなどを利用した情報提供、等

	Q3 里地里山を次世代に継承するためにあなたができることはありますか。
H21田植え体験 相模原市城山町 小松・城北	ボランティアでの参加(3)、地産地消(5)、里地里山の体験を人に伝える(4)、ゴミを捨てない(4)、イベントに参加する、友人を誘う(2)、植林(1)、今は何も出来ない(1)、地元の人にがんばってほしい(1)
H21蕎麦づくり体験 (秦野市菩提)	ボランティアでの参加(5)、ゴミの持ち帰り(4)、地産地消(8)、エコ活動(1)、体験を人に伝えること(1)、時間がない、場所が遠い等により活動するのは難しい(2)、里地里山の現状を周知(1)、里地里山をよく理解する(1) 等
H22田植え体験 (小田原市久野)	体験や里地里山の良さを人に伝える(3)、ボランティア活動(海外への情報発信)(1)、イベントへ参加したり里山を訪れたりして、農業や自然に関心を持ち続ける(3)、ゴミを出さない(1)、地産地消(3)、エコ活動(1)、美しい緑を守る気持ちを持つこと(1)、将来すんでみたい(1)
H23蕎麦づくり体験 (平塚市土屋)	ボランティアでの参加(4)、体験や里地里山の良さを人・子ども達に伝える(4)、イベントへの参加(4)、地産地消(1)、里山の畑で出来る野菜を購入(1)、山にゴミを捨てない(1)、自然にふれあう時間を増やす(1)、気持ちはあっても場所も遠く何もできない(1)
H24田植え体験 (藤沢市石川丸 山谷戸)	ボランティアでの参加(2)、体験を人に伝えること(4)、ゴミを捨てない、少なくとも(2)、イベントへの参加(2)、募金、地元農産物の購入(2)、税金を払うこと(1)、子どもにいろいろな体験をさせる(1)、子どもにもの作りのすばらしさを教える(1)、高齢化する里地里山の方々との交流を深める(1)
H25蕎麦づくり体験 (南足柄市大雄 町)	今回体験した良さを知り合いの人達に伝えていく(3)、環境汚染をしない(2) 物産品等を買ひ、貢献する(1)、子どもに里地里山での体験、経験を一緒に見せてあげること(1)
H26田植え体験 (厚木市七沢)	FB やSNSで広げる(1)、地産地消(2)、耕作放棄地で週末農業をしています(1)、Uターンの助成(2)、難しい(1)
H27ラッカセイ、 サツマイモの栽 培体験 (秦野市名古木)	イベントの内容をSNSで拡散(1)、周りの人に伝える(3)、まずは自分で体験してみる(1)
H29自然薯の栽 培体験 (箱根町畑宿)	ボランティア(6)、このようなイベントへの参加(9)、体験や経験を周りの人に伝える(2)、等

表5-3 その他イベントへの出展及びアンケート調査の状況

日時	イベント名	出展内容	場所	回答数
H21.4.25	コープ神奈川主催「たべる、たいせつ つくる、たいせつ」フェスティバル	里地里山のパネル展示	パシフィコ横浜(横浜市)	500
H21.5.24	全国植樹祭 かながわプレ大会 2009		県立秦野戸川公園(秦野市)	—
H22.5.23	H22全国植樹祭		県立秦野戸川公園(秦野市)	193
H23.7.26	H23かながわ食育フェスタ		横浜赤レンガ倉庫(横浜市)	148
H24.6.15~17	二宮環境フォーラム		二宮町生涯学習センター(二宮町)	—
H24.8.7	H24かながわ食育フェスタ		横浜赤レンガ倉庫(横浜市)	39
H24.10.21	青少年問題フォーラム 子ども・若者と自然のフォーラム		神奈川県立青少年センター(横浜市)	—
H25.8.7	H25かながわ食育フェスタ		横浜赤レンガ倉庫(横浜市)	—
H26.7.30 H26.11.11~16	H26かながわ食育フェスタ かながわ屋里地里山フェア		横浜赤レンガ倉庫(横浜市)	—
H27.7.28 H27.12.15~20	H27かながわ食育フェスタ かながわ屋里地里山フェア		横浜赤レンガ倉庫(横浜市) シルクセンター1階	—
H28.7.28 H28.12.18~26	H28かながわ食育フェスタ かながわ屋里地里山フェア		横浜赤レンガ倉庫(横浜市) シルクセンター1階	—
H29.12.5~	かながわ屋里地里山フェア	シルクセンター1階	—	

表5-4 主なアンケート結果

(1) 里地里山という言葉を知っていますか。

日時	イベント名	知っていた	始めて知った	備考
H21.4.25	コープ神奈川主催「たべる、たいせつ つくる、たいせつ」フェスティバル	35.8%	36%	26%は聞いたことがある。
H22.5.23	H22全国植樹祭	151/78.2%	42/21.8%	—
H22.6.12	H22田植え体験	13名/57%	8名/35%	平成22年子ども里地里山体験学校(小田原市久野)(性別、年代調査なし)
H23.2.12	かながわ屋里地里山シンポジウム	119/80%	20/14%	男性65%、女性24%、年代は参加者の多い順に、60代(32%)、20代(16%)、50代(15%)、70代以上(14%)

H23.7.26	H23かながわ食育フェスタ	36/53.7%	31/46.3%	男性 27%、女性 73%、年代は参加者の多い順に、60代(23.9%)、30、40代(17.9%)、50代(16.4%)、20代(14.9%)
H23.8.20	H23蕎麦づくり体験	14名/61%	9名/39%	平成 23 年度子ども里地里山体験学校(平塚市土屋) (性別、年代調査なし)
H24.8.7	H24かながわ食育フェスタ	22/51.2%	21/48.8	男性 15%、女性 85%、年代は参加者の多い順に、60代 23.1%、40代、20代は 20.5%、50代が 17.9%、30代は 10.3%
H24.5.26	H24田植え体験	9名/43%	12名/57%	平成 24 年度子ども里地里山体験学校(藤沢市石川) (性別、年代調査なし)
H25.12.15	H25蕎麦打ち体験	7名/33%	14名/67%	平成 25 年度子ども里地里山体験学校(南足柄市大雄町) (性別、年代調査なし)
H26.10.18	H26田植え体験	6名/38%	10名/62%	平成 26 年度子ども里地里山体験学校(厚木市七沢) (性別、年代調査なし)
H27.1.24	H26かながわ里地里山シンポジウム	195名/80%	48名/20%	男性 49%、女性 51%、年代は参加者の多い順に、60代 45%、70代以上 33%、50代 12%、40代 7%
H27.6.27	H27ラッカセイ、サツマイモの種まき体験	7名/70%	3名/30%	平成 27 年度子ども里地里山体験学校(秦野市名古木) (性別、年代調査なし)
H28.4.30	H28かながわ子ども里地里山フェスティバル	16名/31%	35名/69%	—
H29.2.4	H28かながわ里地里山シンポジウム	230名/95%	13名/5%	男性 52%、女性 24%(未回答あり)参加者の多い順に、70代以上 37%、60代 36%、50代 14%、40代 6%
H29.10.28	H29自然薯草刈り体験	3世帯/30%	7世帯/70%	平成 29 年度子ども里地里山体験学校(箱根町畑宿) (性別、年代調査なし)

(2)里地里山の保全の必要性及び税金投入の必要性

日時	イベント名	保全は必要	税金投入は必要又は妥当	備考
H21.4.25	コープ神奈川主催「たべる、たいせつ つくる、たいせつ」フェスティバル	88.4%	—	
H22.5.23	H22全国植樹祭	97.4%	96.9%	
	H22田植え体験	92%	100%	
H23.2.12	かながわ里地里山シンポジウム	89%	87%	
H23.7.26	H23かながわ食育フェスタ	95.5%	91%	
H23.8.20	H23蕎麦づくり体験	100%	100%	
H24.8.7	H24かながわ食育フェスタ	100%	90.5%	
H24.5.26	H24田植え体験	95%	95%	
H25.12.15	H25蕎麦打ち体験	95%	52%	
H26.10.18	H26田植え体験	81%	88%	
H27.1.24	H26かながわ里地里山シンポジウム	—	90%	
H27.10.18	H27ラッカセイ、サツマイモの収穫体験	89%	56%	
H29.2.4	H28かながわ里地里山シンポジウム	—	92%	
H29.10.28	H29自然薯草刈り体験	100%	—	

(3) その他意見

<ul style="list-style-type: none"> ・子ども支援として子供達の成長の過程に合わせ、これらの活動をPRしてほしい。 ・保全活動に参加するための「きっかけ」がもっとあれば良いと思った。 ・企業のCSR活動と連携しても良いのではないか(資金面で)。 ・県は縦割りがあって、土木などとの県内での連携が取れていないと思う。 ・里山におけるヤマビル駆除をもっと積極的に行ってほしい。 ・ボランティア間のネットワークが確率していないように思うので、横のつながりの強化を求める。 ・自治体が主催で気楽に参加出来る場を広報しながら設けてほしい。 ・「里地里山の保全」と「地域経済の成立(両立)」について触れて欲しい。 ・参加出来る案内を広報誌に掲載して欲しい。 ・若い人の活動の場を広げるような施策を拡大して欲しい。 <p style="text-align: right;">(以上H22 里地里山シンポジウムにて)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食育との連携もして欲しい。 ・(活動しているが)市民の人に気軽に来て欲しい。 ・保全すべき地域は沢山あると思うので、拡大して行って欲しい。 <p style="text-align: right;">(以上H23 食育フェスタにて)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保全活動について、何をすれば良いのか知りたい。 ・多くの子供達が農業体験を通して発見や気づきを感じられると思う。 ・30～40代の大人向けイベントがないのでやって欲しい。 ・働き盛りのファミリー層をどう事業に参加してもらうかが課題。 <p style="text-align: right;">(以上H24 食育フェスタにて)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回のようなイベントをどんどんやって欲しい。都会と里山を結ぶイベントの実施。 ・若い人達の就農支援。 <p style="text-align: right;">(以上H25 子ども里地里山体験学校にて)</p>
--

- ・鳥獣被害への対策を考えないといけない。
- ・里山ボランティアや活動をしてみたいと思っても、どこから情報を得ていいのかわからない。
- ・大学生や企業との連携が大切だと思いました。小学校・中学校でも里地里山に関する授業をおこなえばいいのではないか。

(以上H26 シンポジウムにて)

- ・可能な限り予算面での補助。

(以上H27 子ども里地里山体験学校にて)

- ・補助金は使用方法を地域に適した形で使用できるように緩和してもらいたい。
- ・里地里山のボランティアに子連れで参加する。
- ・企業の社員研修などの場で情報を提供する。
- ・若い人達へのアプローチにはデジタルメディアの活用が不可欠である。
- ・横国の大学生の研究報告が新鮮でした。是非、学生の体験や研究を継続してください。
- ・里山保全と福祉の連携強化。リハビリ効果を期待したい。
- ・県、市、町とNPO団体などと連携して、県民が自然に触れ、農業や環境保全活動が体験できるように取り組んでみてはどうか。

(以上H28 シンポジウムにて)

- ・小学校等の学習の場など、教育に活かす。
- ・ボランティアの募集
- ・SNSなどを活用した情報提供
- ・里地里山を理解してもらうためのこのような企画

(以上H29 子ども里地里山体験学校にて)

表6-1 保全等への参加形態の多様化

参加目的	参加内容	参加者	場所等	備考
子供の遊び場	里山遊び	平塚市内の 保育園児等	平塚市 土屋	
イベントの 参加	里山祭り、コスモス祭 り、ざる菊祭り、菜の花 祭り、生き物調査等	不特定多数、 近隣の子供達	各地	
販売活動	ブルーベリー石けん の開発・販売(予定)		平塚市 土屋	里地里山で生産されたブ ルーベリーを利用。 活動団体の経済的自立 の一助とする。
ホテル宿泊者 の集客	田植えと稲刈り体験を 組み込んだ 宿泊プランの設定等	大箱根ホテルの 宿泊者	小田原市 東栢山	田植えと稲刈り 共に参加する客もあり、 ホテルにメリットある。 体験場所、イベント企画 等は地元団体が実施。
会員の活動 の場	農作業体験	コープかながわ の会員	秦野市 菩提	参加者の募集はコープ、 体験場所の提供等は 団体
企業の研修	下草刈り	東京ガス社員	相模原市 城山町小 松城北	参加に必要な資機材 (草刈用の鎌の提供)
企業CSR活動 沿線価値の 向上	菜の花祭りの 広報活動への協力	小田急電鉄(株)	小田原市 東栢山	ポスターの掲示、 チラシ配布等
企業CSR活動	環境保全活動 に対する協力金	ソニー	厚木市 七沢	現在協賛金は休止中
	イベントを共催	小田急電鉄 東京海上日動		田植え、ホテル鑑賞等
	販路の提供	かながわ屋		活動団体の経済的自立 の一助とする。

(団体からの聞き取り調査等による)

表6-2 小田急電鉄主催イベント 参加者のアンケート結果

実施年月日	イベント名	実施場所	参加者	Q. 里地里山という言葉を知っていたか。	Q. 里地里山を保全する必要があると思うか。	Q. 保全のために行政にしてほしいこと。	Q. 今後、保全活動等に参加してみたいか。
R3. 11. 27	2021 里山の観察会	川崎市黒川	県内:60% 県外:40%	はい:60% いいえ:40%	はい:80% いいえ:0% どちらとも言えない:0%	・広報のためのイベントを企画して欲しい。 ・保護のとりまとめ。 ・費用負担。	はい:20% いいえ:0% どちらとも言えない:60%
R4. 6. 4	小田急親子ゼミ<自然編>農業体験(田植え)	秦野市蓑毛	県内:44% 県外:56%	はい:31% いいえ:69%	はい:81% いいえ:0% どちらとも言えない:13%	・体験型、参加型のイベントを実施して欲しい。 ・イベント等の情報発信。 ・里地里山に触れる施設を設置してほしい。 ・ワーケーション。 ・何を残すかを決めて保護して欲しい。 ・地域で考えること	はい:44% いいえ:6% どちらとも言えない:38%
R4. 11. 26	小田急親子ゼミ<自然編>里山体験(野菜収穫と竹工作)	川崎市黒川	県内:29% 県外:29%	はい:14% いいえ:43%	はい:57% いいえ:0% どちらとも言えない:0%	・今回のような「知る活動」を増やしてほしい。 ・守るためにも多くの方にアピールすること。また、イベントを企画し、参加してもらうこと。 ・森林、畑、竹林の保全の手伝い。 ・このようなイベントを通じてみんなに里地里山の大切さを伝えて欲しい。 ・農業体験や生産者との交流の企画。	はい:50% いいえ:0% どちらとも言えない:7%

表7 活動団体相互の連携の強化（里地里山サミットの開催）の実績

年度	実施内容	出席団体	意見交換の内容等
H21 (秦野市)	問題点や課題についての意見交換	七沢里山づくりの会 海老名里山づくりボランティア山仕事の会 綾瀬城山ホテル保存会 名古屋里山を守る会 表丹沢菩提里山づくりの会 里山をよみがえらせる会 土屋里地里山再生グループ、 石川丸山ホテル保存会 五本松原花咲く里山協議会 矢倉沢地域活性化推進委員会及び矢倉沢自治会 美しい久野里地里山協議会 米神自治会(12団体)	[安全管理対策] ・チェーンソー等の機械作業における対策について ・救命救急について ・保険について [衛生管理] ・参加者のトイレ [組織運営] ・会員の確保・募集 ・資金や会費 【効果】 ・他の団体の様子がわかる
H23 (小田原市)	南足柄市矢倉沢と小田原市東栢山の現地調査及び意見交換 (前回サミットのおさらい、新たな課題など)	協定認定を受けている10団体、今後協定認定を受ける予定の2団体、活動団体の属する7市等	[安全管理対策] ・チェーンソー等の機械作業における対策(その後) ・保険について [衛生管理等] ・資材置き場、トイレ、看板などが規制等により設置出来ない。 [組織運営] ・会員募集について(口コミ、募集しない、地域住民が少ない) [個人情報] ・PRのための写真撮影の取扱
(H24) (厚木市)	意見交換 (各団体から提案のあった4テーマ)	協定認定を受けている13団体、活動団体の属する7市、その他3市等	[会計について] ・会員に対してわかりやすい項目で分類・整理する。 [会員について] ・里地里山の魅力を伝えることが大切。 [保険について] ・掛け金が高いのが課題。議論を深めることに。 [環境オフセット・企業連携] ・活動を自立するための企業連携等について事例発表
H25 (小田原市)	意見交換 (各団体から提案のあった3テーマ)	協定認定を受けている14団体、今年度新しく認定された22団体、活動団体の属する7市等	[若くて活動の中心になる人の発掘について] [自主財源を得るための課題と対応について] [里山のあるべき姿、保全活動の目的について]

H26 (開成町)	意見交換 (各団体から提案のあった5テーマ)	協定認定を受けている18団体、活動団体の属する9市等	[地域連携事業活動実態] [組織運営の基盤づくりについて(会員の高齢化)] [新会員の募集について] [情報発信・広報活動について] [不法投棄について]
H27 (小田原市)	意見交換 (各団体から提案のあった4テーマ)	協定認定を受けている20団体、活動団体の属する9市等	[地域に根ざす活動であるための工夫について] [会員の高齢化] [活動と地主の考え方] [資金力を付けるには、何が必要か]
H28 (平塚市)	大学連携や団体の活動内容に関する発表と意見交換	協定認定を受けている18団体、活動団体の属する9市等	[鳥獣被害の状況とその対策] [安全対策とリスクマネジメント]
H29 (海老名市)	農泊について 国からの説明及び意見交換 県からの情報提供	協定認定を受けている15団体、活動団体の属する9市町等	[農泊の推進について] [条例、指針の見直しについて]
H30 (小田原市)	意見交換 (各団体から提案のあったテーマ)	協定認定を受けている19団体、活動団体の属する9市町等	[活動への新規加入者の確保] [「若い人」に入ってもらうには]
R4 (平塚市)	意見交換 (各団体から提案のあったテーマ)	協定認定を受けている15団体、活動団体の属する7市町等	[コロナによる保全活動の変化、工夫]

表 8 大学・研究機関等との連携による調査・研究の推進

内容	実績
① 保全等の効果の科学的検証	各活動団体と大学、企業等が連携して独自に科学的に検証をしている。平成28年度のシンポジウムで、横浜国立大学が、研究成果を発表。
② 保全等の手法の調査・研究	平成26年度大学発・政策提案制度を利用して、横浜国立大学と「里地里山保全効果に関する学際的研究」について協働研究を実施。実施期間は平成27, 28年度の2年間。
③ 企業や大学との連携アンケート	平成27年度実施。対象は、活動協定認定団体20団体。(回答は13団体)